

地域・保護者・行政・学校の4輪駆動で小学校を存続させよう！

～移住促進で児童数確保をめざす～



佐々並のキセキ

萩市立佐々並小学校
校長 船木 美弘

少子高齢化の波が地域に押し寄せている！

中山間地の佐々並地区では、ついに地区の最後の学校である**佐々並小学校の休校**が現実になっている。現在、佐々並小学校の児童数は**13名**、過去一番少ない児童数である。令和2年4月、佐々並小学校では最後となる入学式が行われた。当時、佐々並地区の未就学児は0人で、あさひ保育園佐々並分園が休園し、翌年以降の入学予定がなかった。そして在校生が全て卒業する令和8年度「休校」へのカウントダウンが始まった。

佐々並小学校 今後の児童数の推移							
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
1年	2						
2年	2	2					
3年	3	2	2				
4年	3	3	2	2			
5年	3	3	3	2	2		
6年	3	3	3	3	2	2	
合計	16	13	10	7	4	2	0
学級数	3	3	2	2	1	1	0

これまで4回の「学校と住まいの見学会」を実施、5家族18人うち10人の子どもの移住があった。

佐々並小学校 今後の児童数の推移 佐々並のキセキ							
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
1年	2	①	①	①	②	①	?
2年	2	2	①	②	①	②	①
3年	3	2	2	①	②	①	②
4年	3	3	2 + ①	2 + ①	①	②	①
5年	3	3	3	2 + ①	2 + ①	①	②
6年	3	3	3	3	2 + ①	2 + ①	①
合計	16	14	13	13	12	10	7
学級数	3	3	4	4	4	3	3

※特支含む

※○の数字は移住定住で増えた児童数 これまで合計⑨人増加

学校存続に向けて「ささラブ応援隊」が発足

休校か学校存続か？ どちらか一方しか選択できない。何もしなければ休校になる。



今後の動向を考えるために、令和2年10月に学校と保護者の懇談会を開いて現状と危機感を共有した。休校の 때가 明確になったことで危機感を募らせた保護者として、「**地域の学校はずっと続いて欲しい。子どもたちに母校を残してあげたい。**」という思いは切実であった。しかし、保護者や学校だけの努力では限界があった。

そのため、令和2年12月に「今できることを、今やろう」と、保護者、地域、行政そして学校が連携する「四輪駆動」で子育て家族の定住促進活動を実践する「**ささラブ応援隊**」が発足した。

「ささラブ応援隊」の活動の様子

4つのチームに分かれて熟議を実施 → チームリーダーが常時情報交換を行っている。

<p>事務局チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全体の取りまとめ • 進行やスケジュール管理、情報収集 • 会議の企画・運営や会計 • 外部との交渉のための最初の窓口 • 他地区の取組を調査して伝達 	<p>空き屋探索チーム</p> <p>※萩市との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • 佐々並地区の空き屋について調査 • 小学生が住むことが可能な住居の探索 • 他の「空き家バンク」とリンク
<p>広報・情報公開チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> • それぞれの活動やお知らせを紙媒体（ポスターやチラシ）を作成して配付 • ささラブ応援隊ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramなどを活用して移住定住を広く周知する活動 	<p>アイデア実践チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> • いろいろな視点でアイデアを考えて積極的に進言する。 <p>※主に母親が活躍</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各チームの実働支援部隊になる。



4つのチームで知恵やアイデアを出し合う

「第1回佐々並小学校と住まいの見学会」の開催

早急であったが、2ヶ月後の令和3年2月に新1年生の確保を目標に「第1回佐々並小学校と住まいの見学会」を開催した。学校と少人数学級、先進のオンライン授業の魅力を伝える公開授業、児童による佐々並紹介、地域の人と触れ合う地区の散策、移住に必要な

住まいを紹介する空き家の見学を実施した。

保護者はポスターをコンビニに設置するなどPRにも奔走し、地域情報誌やテレビ番組（「熱血テレビ」ぶるぼんさん）でも紹介された効果もあって7家族の参加があった。見学会当日は「どうしてやろう会」の皆さんによる伝統的建造物群保存地区の案内や**地域の方が応援の言葉と共に届けてくださった野菜やお米200kgの提供もあった。**

危機感を持ちながら地域ぐるみで見学会に取り組んだところ、参加7家族のうち3家族から移住希望があった。そのなかの1家族4人の住まいがすぐに決まり、令和3年4月、今後ないと心配されていた**佐々並小学校の入学式を実施**することができました。学校や保護者だけでなく、地域全体の大きな喜びとなった。



その後も2・3・4回目と学校と住まいの見学会を実施、農業体験活動などのイベントの開催や移住希望者との関係づくりに取り組み、約2年間の活動で**計5家族18人（うち子ども10人）**が佐々並地区へ移住が決まった。おかげで入学式も令和7年まで毎年開催できる見込みとなり、地域の関心や支援も広がってきている。



第3回佐々並小学校と住まいの見学会



住まいの見学会も実施

このほかにもある、みんなの知恵とアイデアの結晶

ささらぶ応援隊の「次の一手」

ささらぶ応援隊では、移住推進活動を中核に、移住につながる活動「次の一手」を積極的に行っている。そして、それらが地域活性化にも貢献している。

① **行事のコラボレーション** ※11月20日（日）開催

第4回佐々並小学校と住まいの見学会を実施

地域の行事と合同開催して、多くの方に関心をもってもらおう。

② **佐々並地区定住推進連絡会** ※5月22日（日）開催

各自治会・各団体・行政・保護者の連携強化



活動状況

- ・確認した18軒の空き家のうち数軒の情報が提供され、そのうち一軒の移住交渉が進んでいる。
- ・第2回連絡会も予定

住まいがあれば、ささラブ応援隊が移住希望の子育て家族を見つけます！

「空き家再生プロジェクトチーム」の活動を企画中

佐々並在住の修理の達人が集まって、空き家をなんとか活用できないかを考えて実働します。

③ ささラブ学園 ～ささなみ ふるさと体験学習～

学習支援活動・・・地域の方が先生役、佐々並の魅力を体感する

今後の予定

- ① 4月20日(水) あゆ放流教室
- ② 5月7日(土) 田植え教室
- ③ 5月26日(木) いも植え教室
- ④ 6月17日(金) ごま植え教室
- ⑤ 8月6日(土) 木工教室
- ⑥ 8月30日(火) カヌー教室
- ⑦ 9月3日(土) 稲刈り教室
- ⑧ 10月13日(木) アサギマダラ&昆虫教室
- ⑨ 10月21日(金) いも掘り教室
- ※ 11月20日(日) 地域の祭り「秋の祭り」一緒に参加
- ⑩ 12月23日(金) 迎春準備教室
- ⑪ 2月5日(土) ささなみ豆腐
- ☆ 2月?日 雪ん子教室
- ※他にも楽しい〇〇教室を企画します。お楽しみに！

自然豊かな佐々並で、楽しく元気に農業や自然体験学習など実施。小学生ならだれでも入園可！土、日曜日・夏休みの開催は他地区の方も！



④ ふれあいコンサート ～地域へ感謝 児童のおもてなし～

昨年度は「ちひろコンサート」を行い大好評！

「ささラブソング」児童が作詞、ちひろさんが作曲！

今年度は10月9日(土)の人権参観日に実施！ youtubeの紹介動画→「ささラブソング」が完成して披露しました。

萩市地域住民活動チャレンジ補助金 20万円



⑤ 新しい活動拠点の整備

移住のアシスト、住民の交流の場、観光案内など

伝建の「旧阿武萩森林組合」が市の支援により、活動拠点になる予定

※令和5年4月にオープンの予定 3,247万円の市の予算



第3回佐々並小学校と
住まいの見学会の紹介
(youtube)



学校ホームページ
「佐々並小日記」



facebook
「ささラブ応援隊」

※Instagram
Twitterもあります。

まだまだ手探り状態の「ささラブ応援隊」である。学校存続のためには児童数確保が必須である。佐々並小学校は、令和8年度からすべて移住家族の子どもになるが、これが学校存続のための「時代に合った学校の姿」とすると、住民全員が理解の上で移住推進活動を行っている。何もしなかったら児童数が減って休校になってしまう現実がすぐ目の前にある。

萩市の多くの学校の状況はどこも同じである。学校存続のために何ができるのかをみんなで考え、地域全体で実働させていくことが大切である。

可能性は無限である。ピンチはチャンス、始めなければ始まらない。どの学校でもできる！

あきらめない！やってみないとわからない！
すべては子ども達の笑顔のために！